

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像
自らの課題に気づき、学び続ける子

堺市立 日置荘西小学校
校長 石田 愛

令和5年度 重点目標
 ◆「ひ＝一人ひとりの個性を大切に」…発達段階や特性に応じた児童理解を進め、一人ひとりを大切にし個性や可能性を伸ばす ◆「き＝きれいで落ち着き」…規範意識を持ち、互いの立場を思いやることができる豊かな心を育てる
 ○「に＝ここに笑顔あふれる環境のもと」…健やかで安心安全、秩序と活気のある教育環境づくり ◆「し＝しっかり考え、学びあう児童を育成」…自ら学び、他者と協働しながら、学んだことを生かしている資質・能力の育成
 を、保護者・地域との連携・協働のうえ、教職員のチーム力を持って取り組む。

確かな学びの現状
 ○「日置西スタンダード」を数年間提示してきており、未だに定着度にはばつきが見られるものの、その定着度はあがっている。
 ○「検証分析改善シート」の結果より、学習することが大切だと感じている児童が多い。
 ○落ち着いた課題に取り組む姿や、意欲的に学びを進める姿が多く見られる。一方で、自分の思いを話したり、相手に伝わるように書いたり、説明したりすることに苦手意識を感じ、どうすればよいか困っている児童もいる。
 ○自己や友だち、教師との対話の中で、新たな見方や考え方に気づき、考えを深めることができている場面も増えてきてはいるが、まだ定着できたとは言えない。

豊かな心・健やかな体の現状
 ○居場所と出番のある安心できる学級づくりを行い、積極的に学んだり、関わり合ったりする中で、豊かな心を育成する。
 ○なかよし会など異学年集団での活動を通して、リーダー性・自主性を育成する。
 ○体育授業で児童振り返りを活用し、体力向上をめざす。
 ○生活集団については朝食喫食率は高いが、就寝時刻を守れている児童の割合が低い。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	特別支援	人と人との関係や教室環境など、学習環境のユニバーサルデザイン化を図り、どの子も集中して学べる環境づくりを進める。	「日置西スタンダード」にもとづき、学習環境のユニバーサルデザイン化について共通理解し取り組むことで、どの子にもわかりやすく、集中して学べる環境づくりをすすめる。	児童アンケート(肯定80%以上) 「1日の流れを分かって生活できている」 「授業中、落ち着いた学習に取り組めている」	教育アンケート	年度末	○ 年度初めに「日置西スタンダード」の内容について全職員で確認をしたり、月末にできているかの評価を振り返ったりすることにより定着が進んでいる。	○ 両項目で9割近い結果が表れた。普段の授業や行事等で流れを確認して、自ら考えて行動することができた。この結果を次年度にもつなげていきたい。	○ 1日の流れがわかっていることで、安心して学校生活をおくれている児童も多いと思う。安心して学習を行うためにも、今後も継続して行ってほしい。
	教科学習	対話から探究的に思考し、考えを深めることができる児童を育てるために、昨年度までの取り組みである、「子どもをつなげる工夫」「ふりかえり」「基礎力向上」の3つの重点的な取り組みに、「探究的に学ぶためのしかけ作り」をさらに加えた授業づくりに努め、児童一人ひとりの資質・能力の向上をめざす。また、日置西スタンダードとして、研修・人権・支援の3つの視点から自身を見つめ、児童が学ぶ土台作りの徹底をはかる。	●★他者や指導者との対話、ICT、本などの資料の活用によって、新たな見方・考え方に気づき、自分の考えをより深めることができる児童を育てる。 児童一人ひとりの学びを見とる目を養いながら、授業力向上にむけて研修テーマにそった授業研究をグループで行い、それについて討議し、授業改善に活かす。 ●学習のまとめとして、自らの学習をふりかえる活動や、次の学習につなげる活動を、意図的に授業で用いる。	児童アンケート(肯定80%以上) 低中高の「考えの深まり」を示す項目 「タブレット・本などの資料を使って調べ活動を行っている。」 研究授業・公開授業を年に6本以上行う。 児童アンケート(肯定80%以上) 低中高それぞれの「ふりかえり」を示す項目	教育アンケート 実践報告 教育アンケート	年度末 毎学期 年度末	○ ICTや本などで情報を得つつ、友だちや先生との対話活動に意欲的に取り組み、考えを深めている児童が増えている。 ○ 1・2・3・4・6年が研究授業・公開授業を行った。授業後に討議会を行い、授業改善に努めている。 ○ 学年の現状に合う形で、学習のふりかえりを行っている。その時間の学びを確認し、次の学習へ繋げている児童も増えている。	○ 両項目で目標の80%以上の肯定的結果が表れた。特に「タブレット・本などの資料を使って調べ活動を行っている」の肯定的結果が94.1%だった。各学年で子どもたちが教科書以外の資料も用いて学ぶことができた。 ○ 全学年が研究授業・公開授業を行った。授業後に討議会を行い、それぞれ日々の授業に活かしていけるように改善に努めることができた。 ○ 80%以上の肯定的結果が表れた。様々な教科で学んだことをしっかり振り返り、次の学習に繋げることができた。	◎ 家でも学校から持ち帰ったタブレットを使用し、宿題を行っている。保護者に手伝ってもらうことなく、自分だけでできることがすばらしいと思う。また、調べ学習を行ったり、学習アプリで自分から進んで学習を行ったり姿を見ると、学校でのICT活用の推進が進んでいると感じた。 ○ 昔とは授業の形が変わったのだと思った。コミュニケーションを重視し、話し合い活動を行っている授業をみたが、今後もこのような授業を行ってほしい。 ◎ 参観でも、授業の振り返りを行う姿を見た。振り返りを記入することで、後からでも気持ちを振り返ると思う。また、家に持ち帰った時に、子どもがどのような学習をしているのかを確認することができた。このような活動を継続してほしい。
	心身の充実	自分のよさを知り、多様な価値観を認め、人とつながり協働できる児童を育てる。	特別の教科道徳の年間計画に基づき、すべての教育活動において計画的・継続的に道徳教育を充実させる。 ●教育活動全体を通して、友だちと学ぶ楽しさや達成感を味わったり、自他の良さに気づいたりできるように取り組み、安心できるなかまづくりを行う。 学校生活において、あいさつやそうじなど、活動の意義を理解することで、豊かな心を育み、意欲的に取り組む力を育成する。	教科書や「未来をひらく」の効果的・計画的な活用。道徳の公開授業の実践。 児童アンケート(肯定90%以上) 「学校が楽しい」 「困ったときに相談できる人がいる」 児童アンケート(肯定80%以上) 「あいさつを自分からしている」 「そうじを最後までしっかり取り組んでいる」	実践報告 教育アンケート 教育アンケート	毎学期 年度末 年度末	○ 学習参観にて、全学級、年に1回以上の公開授業を実施している。校内研究授業でも研修を行った。各学級、おむね計画通りに授業を行っている。 ○ 学級や学年間で、授業、行事、友だちとの関りを通してなかまづくりを行っている。また、なかよし会、クラブ・委員会活動、連合運動会や連合音楽会の壮行会を通して、学年の枠を超えて関わるることができている。 ○ あいさつに関しては、進んで挨拶してくれる児童が増えてきた。掃除では、自分の役割を果たし、隅々まで清掃できている。片付けへの声かけ等は続けていきたい。また、時間を守ることを意識できるよう指導を続けていく。	○ 学習参観にて、全学級、年に1回以上の公開授業を実施している。校内研究授業でも2度の研修を行った。各学級、計画通り授業を行うことができた。 ○ 年間を通して、学年間や学級での仲間づくりに取り組むことができた。アンケートでも80%以上の肯定結果が表れた。どの学年の児童も、本校でのなかまづくりの活動は積極的に行うことができた。 ○ 進んで挨拶をする児童が増えてきた。教師側から挨拶をすることで、それを見た児童に意欲が芽生えたように感じる。また、下校指導で挨拶を促すことで、全体に広まったとも考えられる。掃除に関しては、きちんと行っていた。アンケートでも80%以上肯定的に捉え、取り組めているので、次年度以降も続けていきたい。	○ 道徳は、難しいけど大切な学習だと思う。児童が学んだことを身近にとらえられるように、心の成長できるように、これからも取り組みを行ってほしい。 ○ 自分のクラス、学年だけではなく、他の学年と関わる機会は大変だと思う。その関わりから学ぶことも多いと感じるため、これからも取り組みを継続してほしい。 ○ こちらからあいさつをしなくても、元気にあいさつをしてくれる児童がいることがうれしい。一方で、何度でも声をかけてもあいさつをしてくれない児童が数名いる。性格にもよると思うが、声掛けをしてほしい。そうじをがんばっている姿を見かけた。児童ががんばっている姿が、うれしく思う。
体育・保健	児童の振り返り・げんきアップカードを活用し、健康な体づくりをする。	児童の振り返りを活用し、課題解決型の体育の授業を充実させ、体力向上を図る。 げんきアップカードで、規則正しい生活習慣についての啓発を行う。	①児童アンケート肯定90%以上 「うまくるように考えて運動している」 ②げんきアップカードを年3回実施、生活習慣に関する保健指導を年1回実施	①教育アンケート ②げんきアップカード	年度末	○ ①振り返りカードを活用し、体育の授業の充実と向上をはかっている。 ○ ②げんきアップカードは毎学期実施し、結果を保護者にフィードバックしている。9月には各学年で保健指導を行った。	○ 年間を通して、振り返りカードを活用し、体育の授業の充実と向上をすすめられた。また、なわとびタイムを自主的にを行い、体力向上を図れた。げんきアップカードや保健指導を通して、保護者と継続的に規則正しい生活習慣を目指すことができた。	◎ 委員会活動で、休み時間に体力向上のための取り組みを行うことは、とてもいいと思う。放課後にボール遊びができる公園が少ない中、休み時間以外で体を動かしたり、ボールで遊んだりすることは大切なこと。これからも取り組んでほしい。	
地域協働	地域共育学校	学校だより「いとほぎ」、学年だより、ホームページ等を活用し、教育活動の現状や、学校、学級での取り組みの発信に努める。	学校ホームページを毎日更新し、情報を発信することで、関心を高める。		更新数	毎月	○ 日々、学校の様子をホームページに掲載している。主な行事は学校だより(いとほぎ)にも写真付きで掲載し、取り組みや活動内容を紹介している。	○ 各学期の学習参観、体育大会、日曜参観等、保護者に教育活動を参観していただく機会を設けた。また、tetoru(テトル)で学校だより、学年だよりの配信を行った。日々の活動は、ホームページを毎日更新することで、情報の発信を行った。	○ 今年度から、tetoru(テトル)の配信が始まったことで、外出していても、スマートフォンから下校時刻や行事予定を確認することができ、とても便利になった。ホームページもこれからも毎日更新してほしい。
		●地域ボランティア等に教育活動の場に参加していただき、図書や特別支援等への支援を受けるとともに、学校経営への参画や学校評価への協力を受け、学校改善を図る。	地域ボランティア等への協力依頼や活動回数を増やす。	地域ボランティア等への実践報告	年度末	○ 地域ボランティアの方に、学校図書館の運営に関わっていただいている。また、学習園での夏野菜等の栽培において、授業に参加していただける機会を設けた。	◎ ボランティアのみなさんのご協力で、3年生で学ingを実施することができた。図書館サポーターさんには読み聞かせや、学校図書館の電子化等に大きく関わっていただくことができた。地域ボランティアの方には学習園での野菜の栽培等の関わっていただいていた。児童の教育活動に有意義なものとなった。	○ ボランティアの方が、児童の教育活動に参加していただけることは、とてもありがたいことだと思った。可能であるなら、児童のためにこれからも関わっていただきたい。	

校長より(年度末)
 高学年では1人1台のタブレットを毎日使用し、児童が主体的・探究的に思考し、考えを深める教育を推進した。また、全学年でICTを活用した基礎基本の定着を図るとともに、自分の考えをまとめたり、発信したりするなど、タブレットを積極的に活用した学習活動を行った。これからの時代を生きぬく児童の育成にむけて、引き続きICTの活用能力の向上をめざしていく。
 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に取り入れ、個に応じた学習内容や学習方法を児童が自分で計画しながら、仲間との交流を通して共に学び合える教育について研修を深めていきたい。
 多様性を尊重し、一人ひとりが安心して過ごせる居場所と出番のある学級づくりに取り組んだ。次年度もすべての児童が個人として尊重される学級・学校づくりを推進していく。
 全児童で取り組む学校行事や、防災訓練などの地域との協働行事を実施し、学校・地域・保護者と連携した学校運営に取り組むことができた。
 いただいたご意見を考慮し、次年度の学校運営をよりよいものにしていきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
 学校の先生がとても忙しいという話題を取り上げるニュースがある中、先生方はとても子どもたちのためにがんばってくれていると感じた。授業の参観では、とても楽しそうに授業を受けている子どもたちも多く、安心した。児童用パソコンの使用や、それを使った授業等、ここ数年で新しいことが増えてきた中、それに対応するために、先生方もがんばっていることを感じた。6年生を送る会では、1年生から5年生が、卒業する6年生のために、メッセージや歌をがんばっている姿がよかった。学校全体で卒業する6年生をお祝いする気持ちが伝わってきた。
 不登校やいじめの問題等も世間で言われているなか、これからも子どもたちのためにがんばってほしいと思う。今年度は、水泳や送る会を学校協議会で参観した。最近、学校給食がニュースで取り上げられていた。次年度の学校協議会では、子どもたちが、どのような給食を、どのように食べているのか等が参観できる機会があればいいと感じた。